

令和7年5月22日会議概要

第1 日時

令和7年5月22日（木）午前9時20分から午前11時05分までの間

第2 出席者

在田委員長、池坊委員、森委員、森田委員、増田委員

警察本部長、総務部長、警務部長、生活安全部長、地域部長、刑事部長、交通部長、警備部長、サイバー対策本部長、京都市警察部長、情報通信部長等

《書記 公安委員会補佐室長、公安委員会補佐室室長補佐》

第3 議事の概要

1 委員報告

(1) 情報通信部の業務等視察（5月15日）

委員から、「最先端の機器の運用状況を見せていただいた。技術は日進月歩、素晴らしく進歩していると実感し、それについていく職員のご苦勞の一端を見させていただいた。」旨、報告があった。

(2) 16都道府県公安委員連絡会議（5月19、20日）

委員から、「議題は、『警察署協議会の活性化』と『多様性に向けた取組』で、各都道府県からそれぞれの取組や課題について報告があり大変有意義であった。」旨、報告があった。

また、5月20日の視察について、委員から、「静岡県地震防災センターを視察した。地震の際、実際に必要な食料を現物で提示してあるほか、震度6、7の揺れを実際に体験できるなど体験型の施設であり分かりやすかった。多くの人に、このような災害への意識・知識・情報を取り込んでもらいたいと思った。」旨、報告があった。

2 議題

(1) 第39回京都府警察装備資機材開発改善コンクールの実施について

総務部長から、本年5月中旬から11月にかけて、京都府警察装備資機材開発改善コンクールを実施する旨、報告があった。

同コンクールは、警察職員による装備資機材の研究、開発及び改善の意欲を啓発して、現場に即応した装備資機材の充実、発展を図り、警察活動の高度化、効率化の推進を目的としている。書面による予備審査を通過した作品について、試作品や応募者による説明ビデオを視聴した上で優秀作品を選考する本審査を行う。優秀作品の応募者に対し表彰を行うほか、警察庁主催の令和8年度警察開発改善コンクールに出品する旨、説明があった。

委員からは、「優秀作品が、実際に配備される率はどのくらいか。」との質問があり、総務部長から「率としては不明であるが、昨年の優秀作品の中で、交通機動隊の自転車取締り小隊が考案した作品があったが、今現在、同小隊で運用している。」旨、説明があった。

委員から、「昨年審査に関わったが、日々の職務の中から、こうあれば良いと生み出された色々なアイデアが詰まっており、歩みの努力が分かるもので有難いと思った。」

今年も楽しみにしている。」旨、発言があった。

(2) 検察庁との合同による被疑者逃走事案対応訓練の実施について

総務部長から、毎年検察庁と警察本部が合同で行っている検察庁主催の被疑者逃走事案対応訓練を本年5月26日、京都地方検察庁庁舎内において実施する旨、報告があった。

警察官15人、検察官、事務官等35人が参加して、検事取調べ室から被疑者が逃走するという想定で、検察庁職員と連携し、発生時の対応要領や屋内外における捕捉要領を中心に訓練を行うこと、また、訓練を通じて練度を高め被疑者逃走事故防止に努める旨、説明があった。

委員から「検察庁側は、被疑者制圧に対して積極的に動けるのか。」との質問があり、総務部長から「刺股等を使用して制圧することはできる。」旨、説明があった。

委員から、「警察官の助力も必要と思うので、よろしくお願いします。」「意識を高める上で、訓練は大切だと思う。」旨、発言があった。

(3) ハラスメント防止対策研修会の実施について

警務部長から、本年6月26日、大阪府警察の警察庁指定広域技能指導官（職務倫理教養）を招へいし、警視正以上の階級にある警察官、警部・警部補の階級（同相当職を含む。）にある警察職員を対象としたハラスメント防止対策研修会を実施する旨、報告があった。

同研修会では、アンガーマネジメント等に関する講義を予定しており、対面のほか、リモートで各警察署からも受講する旨、説明があった。

委員から、「職場の働きやすい環境の保持は、マネジメントスキルの問題であるという意識を受講者に持ってもらいたい。」旨、発言があった。

(4) 久美浜湾におけるカヌー等の転覆事案について

地域部長から、本年5月17日、京丹後市久美浜湾カヌー競技場において開催された令和7年度日本カヌーマラソン選手権大会等において、出艇していたカヤック等56艇が強風により次々と転覆したものの救助等され、救急搬送された人もいるがいずれも軽症であった旨、報告があった。

委員からは、「風速の決まりはあったのか。」との質問があり、地域部長から「大会基準として、風速5メートル以上になれば大会は中止するという決まりはあったものの、当時は風速3～4メートルであったため実施していた。」旨、回答があった。

(5) 交通事故捜査におけるドローン運用に向けた取組について

交通部長から、空撮用ドローンを活用した交通事故現場見取図の作成に向けた取組について報告があった。

これまでドローンの飛行訓練や試験撮影を実施しており、今後、練度を高め誤差等を修正し、本年10月1日から運用開始予定である旨、説明があった。

委員から、「ほかの分野でも利用されるべき技術だが、その体制づくりはどうか。」との質問があり、総務部長から「ドローンについては、各部門においてもあらゆる現場で使えるものであり、今検討して実際に運用しつつある。また、情報管理課で汎用性のあるドローンを管理しようとも考えており、今後操縦士も育成していきたいと考えている。」旨、回答があった。

委員から、「多様性を活かせるということで、女性でも興味を持っている方がいるか

もしれず、広く人材を確保していただけたらと思う。」旨、発言があった。

- (6) 集会、集団行進及び集団示威運動に関する条例の許可状況について（4月申請分）
警備部長から、4月中に申請が許可された「集会、集団行進及び集団示威運動に関する条例」に基づく、集会、デモの状況について報告があった。

3 追加報告

葵祭に伴う雑踏警備の実施結果について

地域部長から、本年5月15日、葵祭に伴う雑踏警備を実施したが、一部、牛車が停留したため、若干の交通規制が延長されたものの、雑踏事故や奔馬もなく終了した旨、報告があった。

4 聴聞等

運転免許関係行政処分について

交通部聴聞官から、道路交通法の規定に基づく運転免許の行政処分に係る聴聞、意見聴取の結果について説明があり、9件の行政処分を審議した。

5 個別決裁

(1) 公安委員会告示の制定について

生活安全企画課担当補佐から、銃砲刀剣類所持等取締法第4条の3第2項及び第12条の3の診断を行う医師の指定に関する告示について説明があり、審議の上、告示を決定した。

(2) 八代目会津小鉄会の第12回指定に係る確認請求書等の送付について

捜査第四課主席調査官から、八代目会津小鉄会の第12回指定に係る確認請求書等を国家公安委員会に送付することについて説明があり、審議の上、送付を決定した。

(3) 特定抗争指定暴力団等（六代目山口組・池田組）の指定期限の延長について

捜査第四課主席調査官から、特定抗争指定暴力団等（六代目山口組・池田組）の指定期限の延長について説明があり、審議の上、延長を決定した。

また、「本年4月10日、公安委員会に報告した特殊詐欺被害者が指定暴力団総裁らを被告として損害賠償請求を京都地裁に提訴したことにつき、京都府公安委員会が送付した資料に基づき、同暴力団総裁らの住所地を管轄する公安委員会が、同請求を妨害してはならないとの防止命令を発出したと連絡があった。」旨、報告があった。

(4) 沖縄県警察に対する京都府警察職員の特別派遣について

警備第二課長から、警察法第60条第1項に基づく沖縄県公安委員会からの援助要求に対して、京都府警察職員を派遣する旨の説明があり、審議の上、特別派遣することを決定した。

6 個別報告

当面の行事予定等について

公安委員会補佐室長から、次回の公安委員会定例会議及び出席予定行事等について報告があった。